

「まさか！」昨夏、長崎県五島列島沖の海底に巨大な潜水艦が突き刺さっているのが見つかり、それが太平洋戦争後に米軍が処分した旧日本海軍の「伊58潜水艦」の可能性があるという「ラ・ブロンジエ深海工学会」よる調査報告に驚愕した。広島・長崎に投下された原爆をマリアナ諸島内テニアン島まで輸送した米海軍重巡洋艦「インディアナポリス」を撃沈したのは同艦である。

終戦間近の1945年7月29日夜11時過ぎ、日本海軍屈指の名艦長、橋本以行中佐が指揮する伊58潜は、原爆輸送の極秘任務を終えレイテ島へ向け航行中のインディアナポリスを発見。「魚雷戦用意！」「回天戦用意！」実は同艦は悪名高き人間魚雷「回天」を搭載していた。しかし回天は視認性が悪く夜間の攻撃には不向きであり、しかも敵艦は接近しており魚雷攻撃でも十分と判断。発進を望む回天乗組員からは矢のような

スは沈没。乗員1199名のうち約300名が攻撃で死亡。しかも極秘任務で護衛艦もおらず、ろくにSOS発信も出来ずに水没したため米軍も出米せずに水没したため米軍

続出し多数が死亡、生存者はわずか316名、後に戦勝に沸く米国社会に深刻なショックをもたらしたのは周知のとおりである。

一方で、艦長のチャールズ・B・マクベイ3世大佐は生き残り、橋本も8月18日に広島、呉に帰投。問題はその後である。マクベイは軍法会議にかけられ、ジグザグ運動を怠り船を危険にさらしたとして有罪とされた。米国は大戦中の戦艦で約700隻の艦艇を失ったが、戦艦で撃沈された艦艇の艦長が軍法会議にかけられたのは彼一人である。いっぽう橋本は証人としてワシントンに呼ばれ、「ジグザグ運動をしていても撃沈できた」と証言したが判決はくつがえらなかつた。だが、米国滞在中の橋本に対し、

「貴君は戦犯でも捕虜でもなく、海軍中佐であるゆえ」米側は手厚く対応し、帰国の際には彼の子供たちのための洋服や靴なども揃えてくれたので本当に驚いたと橋本は回想する。

結局マクベイは死んだ乗組員の遺族に責め立てられ1968年に自殺。橋本は梅宮大社の神職となり、さまざまな自責の念から太平洋戦争戦没者全ての鎮魂を祈る日々を送る。かたわらマクベイの名誉回復のために奔走。ついに2000年10月30日、クリントン大統領によりマクベイの名誉は回復されたが、それは橋本が亡くなったわずか5日後であった。

「全ての国々よ。主をほめたたえよ。全ての民よ。主をほめ歌え。」

その恵みは、私たちに大きく、主のまこととはとこしえに至る。ハレルヤ」(詩篇117篇)

愛する者を失った大勢の人々、愛する者のために何か大物をしとめようとした回天乗組員たち、愛する大勢の若者を失った指揮官たち、そして敵に対してなお敬意を払った人々。今も続く不条理と善意、愛と憎しみが交錯する中、神は何もせず傍観している訳ではない。一人でも多くの人を救おうとキリストを送って下さった。今年も終戦記念日がやってくる。今はただ、なくなつた多くの方々に哀悼の意を表し、全ての国々の人々が神を信じることを夢見て、福音のために奔走したい。

南加キリスト教教会連合

終戦記念日特別寄稿

「伊58潜水艦帰投せり」

古林 真理樹

(南加聖書教会牧師)